一等水準点検測成果集録

第　9　巻

(昭和39年度観測)

昭和42年3月

建設省国土地理院

記

本集録は、昭和３９年度に、国土地理院が行なった一等水準点検測の結果を集録図示したものである。

なお、新潟地方地盤変動調査のため行なった一等水準点の結果は、新潟地方地盤変動調査測量に関する報告第１５巻（昭和３９年８月）第１６巻（昭和３９年１２月）及び新潟地震地盤変動調査報告（昭和４０年３月）をもって発表ずみであり、また、受託作業の東京都内、大阪市内、横浜市及びその他の一等水準点検測結果については、それぞれ各委託機関において発表されているので、本集録では省略した。

昭和４２年３月

建設省国土地理院

一等水準点検測成果集録

第　9　巻

（昭和３９年度）

目　　次

1,　観測器械及び観測法 …… 3

(1)　観 測 器 械

(2)　観　測　法

2,　検測区域及び期間 …… 4

3,　変動図の説明 …… 5

附図　一等水準路線図

一等水準点変動図

1　観測器械及び観測法

(1) 観　測　器　械

a　水　準儀儀

観　測　年　度	水　準　儀　名　称	望遠鏡の倍率	水　準　器　感　度
大正14年（1925）以後	Carl Zeiss製Ⅲ型精密水準儀	36倍	10″～12″／2㎜（合致式）
昭和28年（1953）以後	Carl Zeiss製Ⅲ型精密水準儀	36倍	〃
	Wild製NⅢ型精密水準儀	42倍	6″／2㎜（合致式）
昭和31年（1956）以後	Wild製NⅢ型精密水準儀	42倍	〃

b　水準標尺

観測年度	水　準　標　尺　名　称	長サ	目盛部の状況	
			材　質	目　盛　法
大正14年以後	Carl Zeiss製精密水準標尺	3m	インバール（巾2.6㎝長さ3mのものを20㎏の張力で緊張してある）	インバール帯の中央線の両側に2.5㎜の差をもって、5㎜ごとに目盛る
昭和28年以後	Carl Zeiss製精密水準標尺	3m	同　上	同　上
	Wild製精密水準標尺	3m	同　上	同上5㎜の差をもって10㎜ごとに目盛る
昭和31年以後	Wild製精密水準標尺	3m	同　上	同　上

(2) 観　測　法

観測に当っては、地上によく踏みこんだ鉄製標尺台に標尺を尺付属の丸型レベルによって、鉛直に立て、水準儀は両標尺間の中央に整置し、後視－前視、更に前視－後視の順序に観測を行なう。整準ねじによって先ず、丸型レベルの気泡を中央に導き、第一回視準は望遠鏡の視野における標尺の左側分画線の中央に、第二回は右側分画線の中央に、それぞれ測微装置によってくさび型十字糸を導き、プリズム内の水準器気泡の映像が合致したとき、分画線を正しく挾んで、マイクロメーターにより10分の1㎜（昭和35年以前は100分の1㎜）まで読みとった。

水準儀と標尺の距離は、平地では通常60m（Carl Zeiss製Ⅲ型では40m）以内とし、各水準点間（2Km，地点標に併設された水準点間は1Km）は往復測量を行なって、その往復差は、$2.0\,mm\sqrt{2S}$（昭和35年以前は$1.5\,mm\sqrt{2S}$）以内とする。なお「インバール」製標尺は、定期的に「インバール」製1m標準尺及び「インバール」製5m標準尺（共に副原器と直接比較したもの

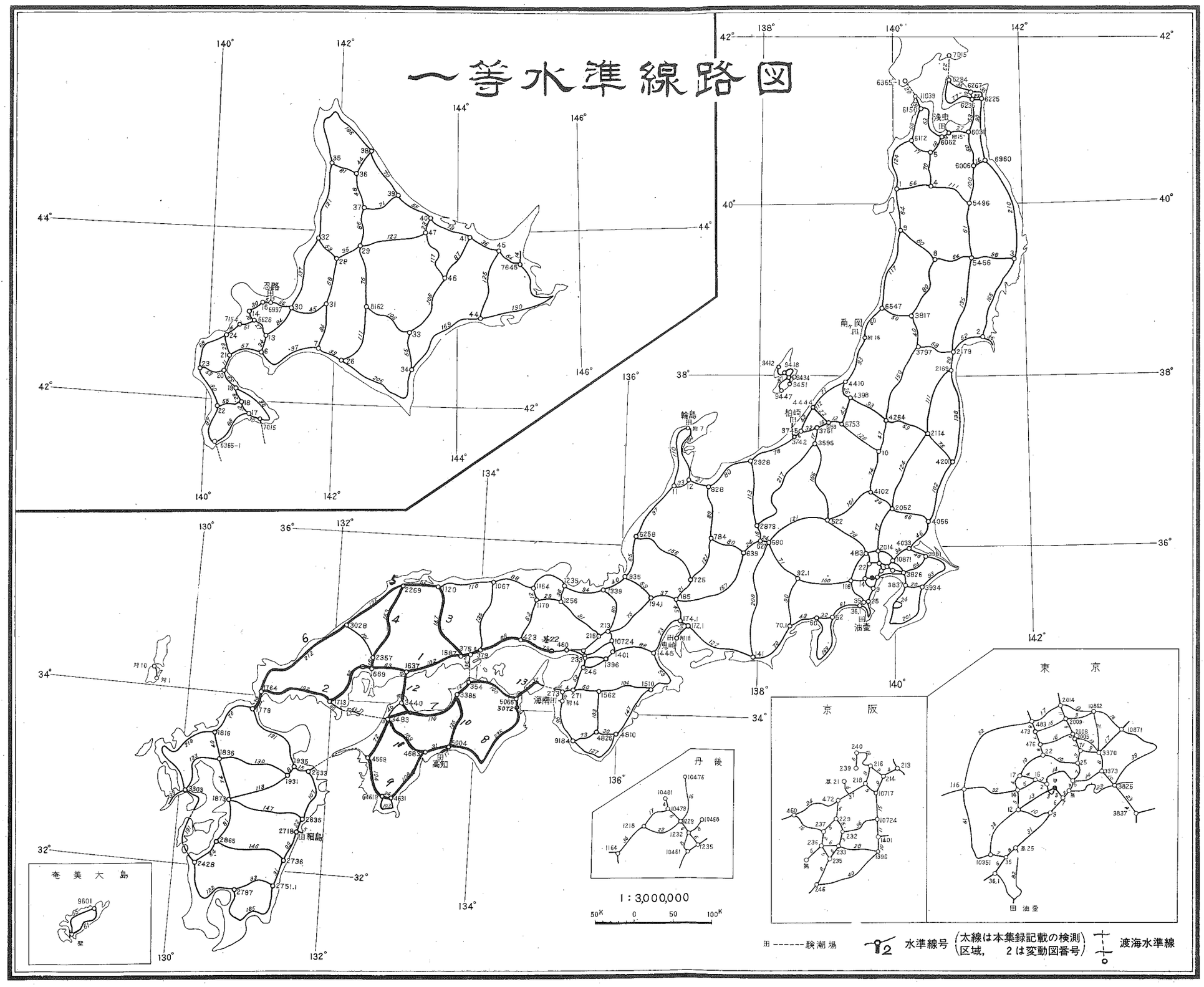
と比較検定して観測値に所要の補正を行なった。

2　検測区域及び期間

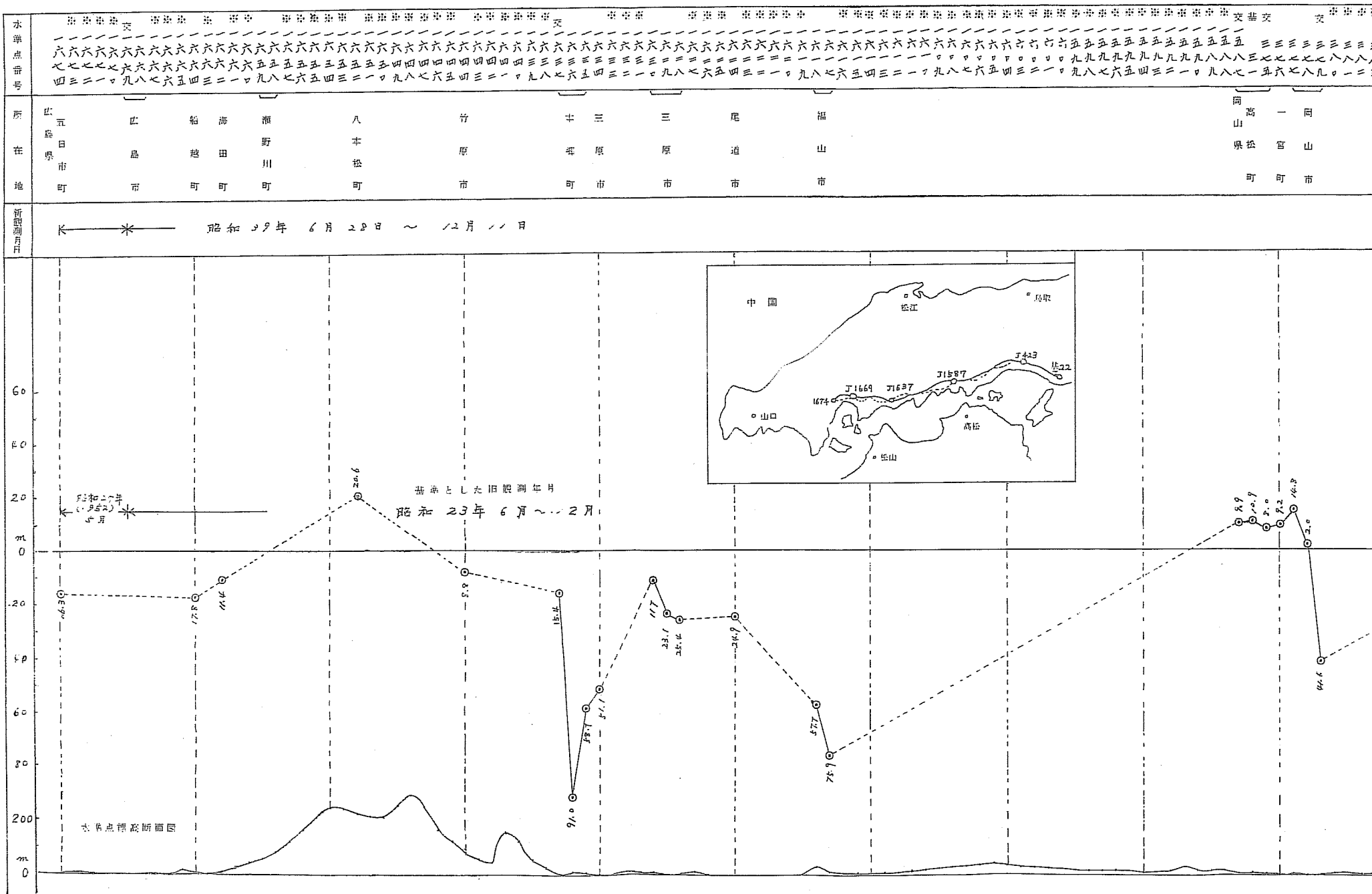
a　当　院　作　業

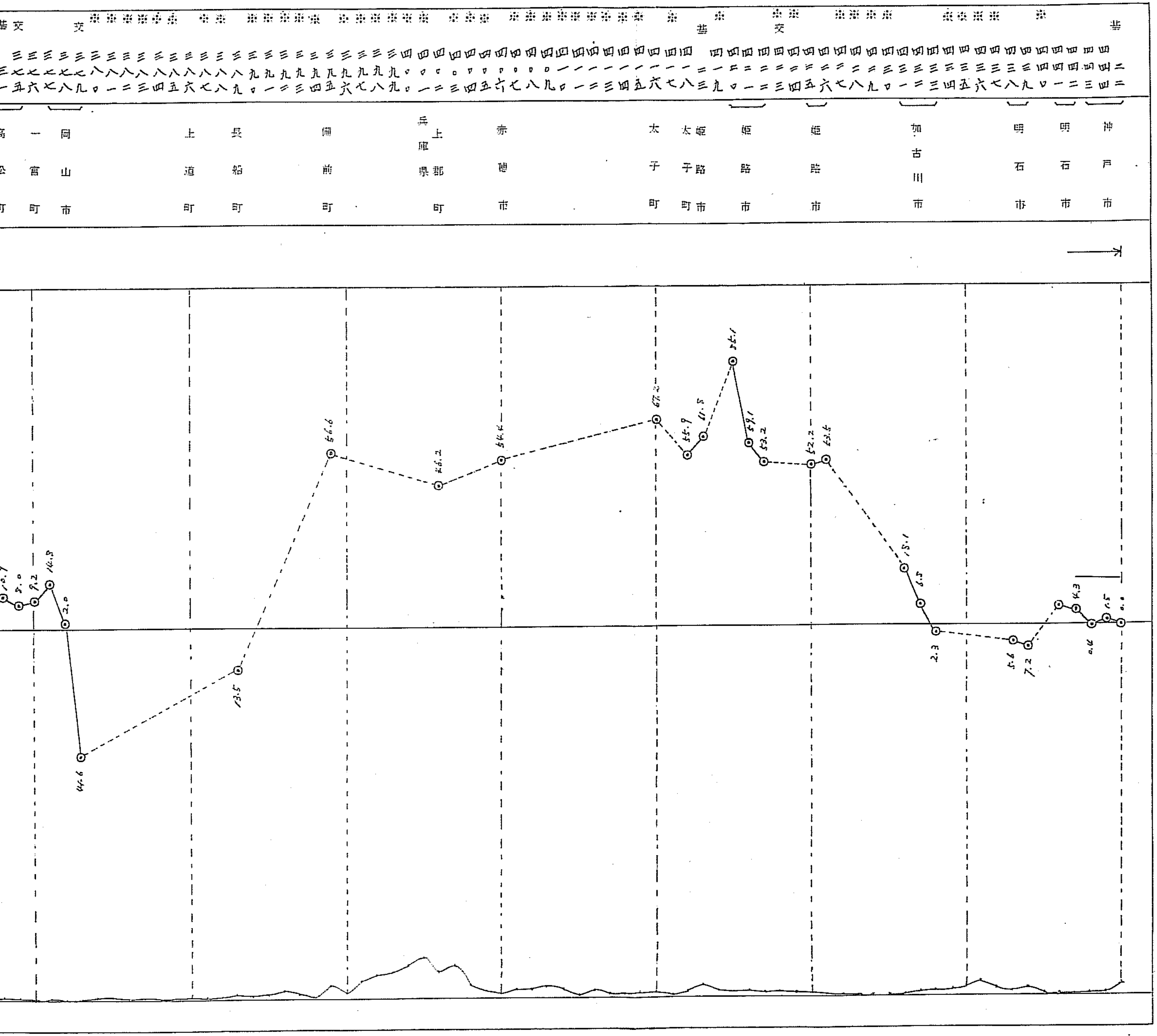
変動図番号	検測区域	不動とした水準点番号	粁数	検測期間
1	自兵庫県神戸市　B. M. F.　22 至広島県佐伯郡五日市町 B. M.　1674	兵庫県神戸市 B. M. F.　22	317	自昭和39年 6月28日 至　〃　年12月11日
2	自広島県佐伯郡五日市町 B. M.　1674 至福岡県北九州市　B. M. J. 1779	広島県佐伯郡五日市町 B. M.　1674	216	自昭和39年 9月27日 至昭和40年 3月 9日
3	自岡山県吉備郡高松町　B. M. J. 1587 至鳥取県米子市　B. M.　2252	岡山県吉備郡高松町 B. M. J. 1587	145	自昭和39年 8月18日 至　〃　11月 6日
4	自島根県簸川郡斐川町　B. M.　2271 至広島県佐伯郡五日市町 B. M.　1674	島根県簸川郡斐川町 B. M.　2271	183	自昭和39年10月28日 至昭和40年 3月13日
5	自島根県浜田市　B. M. J. 3028 至鳥取県米子市　B. M.　2252	島根県浜田市 B. M. J. 3028	238	自昭和39年10月30日 至　〃　12月14日
6	自山口県下関市　B. M. J. 1764 至島根県浜田市　B. M. J. 3028	山口県下関市 B. M. J. 1764	212	自昭和39年10月20日 至昭和40年 3月 7日
7	自徳島県徳島市　B. M. J. 5072 至愛媛県八幡浜市　B. M. J. 4569	徳島県徳島市 B. M. J. 5072	352	自昭和39年 6月15日 至　〃　9月14日
8	自徳島県徳島市　B. M.　5072 至高知県高知市　B. M. J. 5004	徳島県徳島市 B. M.　5072	223	自昭和40年 1月27日 至　〃　3月12日
9	自愛媛県八幡浜市　B. M.　4568 至高知県高知市　B. M. J. 5004	愛媛県八幡浜市 B. M.　4568	269	自昭和39年 9月 1日 至　〃　12月14日
10	自香川県善通寺市　B. M. J. 3385 至高知県高知市　高知験潮場固定点	香川県善通寺市 B. M.　3385	132	自昭和39年 9月16日 至昭和40年 3月25日
11	自愛媛県松山市　B. M. J. 3483 至高知県高岡郡佐川町　B. M. J. 4683	愛媛県松山市 B. M. J. 3483	109	自昭和39年 9月 3日 至　〃　12月 1日
12	自広島県豊田郡本郷町　B. M. J. 1637 至愛媛県西条市　B. M.　3427	広島県豊田郡本郷町 B. M. J. 1637	82	自昭和39年 6月19日 至　〃　10月 4日
13	自徳島県板野郡北島町　B. M.　5068 至兵庫県洲本市　B. M.　284	~~兵庫県洲本市~~ B. M.　5068	48	自昭和39年 7月 9日 至　〃　10月 6日

一等水準線路図


釧路
浅虫
新潟
柏崎
輪島
名古屋
高知
田辺
田ノ浦
田鬼崎
田油壺
田細島
奄美大島
京阪
東京
丹後
1：3,000,000
50K 0 50 100K
田 ------験潮場
水準線号（太線は本集録記載の検測区域，2は変動図番号）
渡海水準線

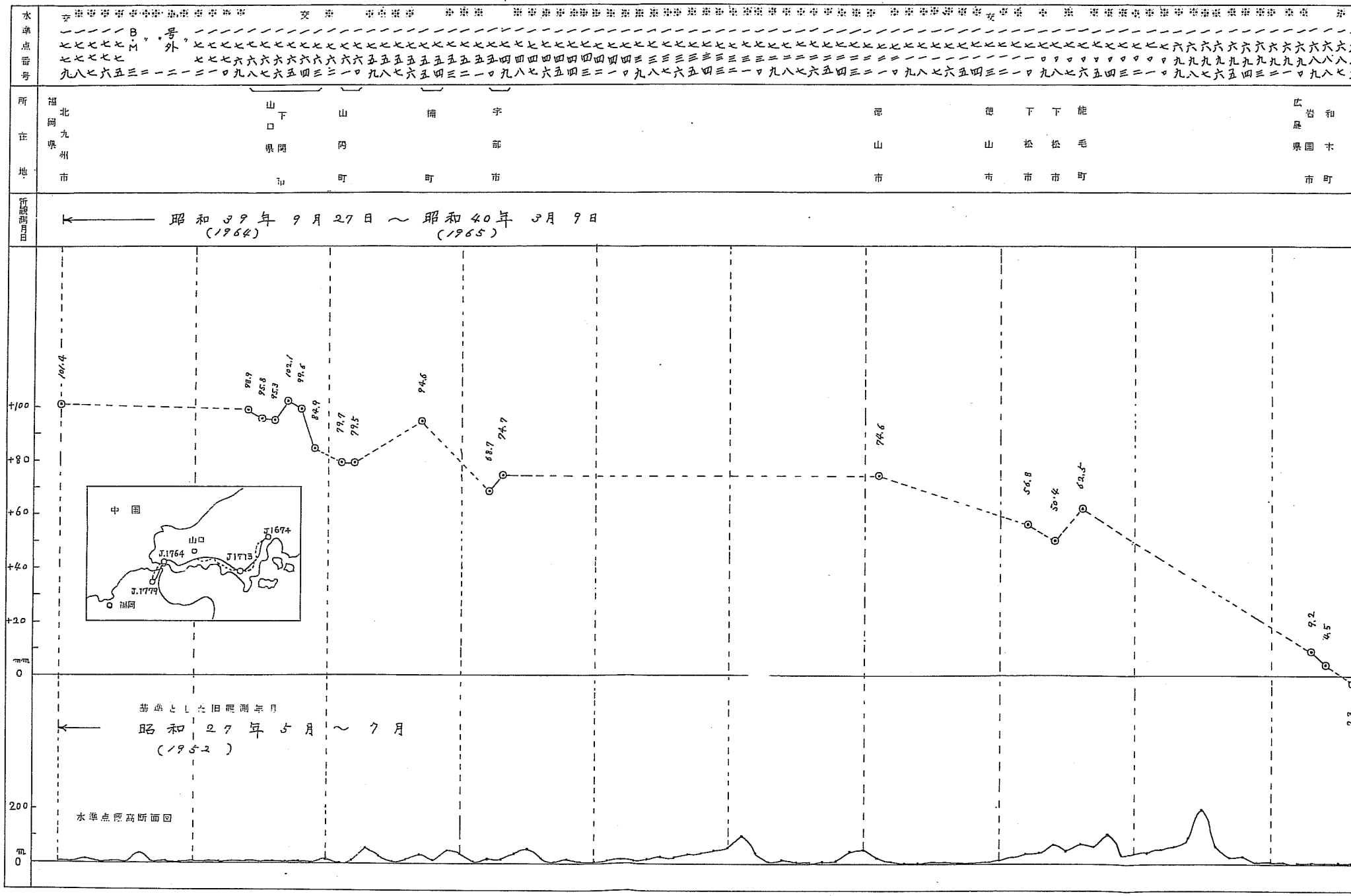
1　自　兵庫県神戸市　至　広島県佐伯郡五日市町





一宮町
岡山市
上道町
長船町
備前町
兵庫県上郡町
赤穂市
太子町
太子町
姫路市
姫路市
姫路市
加古川市
明石市
明石市
神戸市

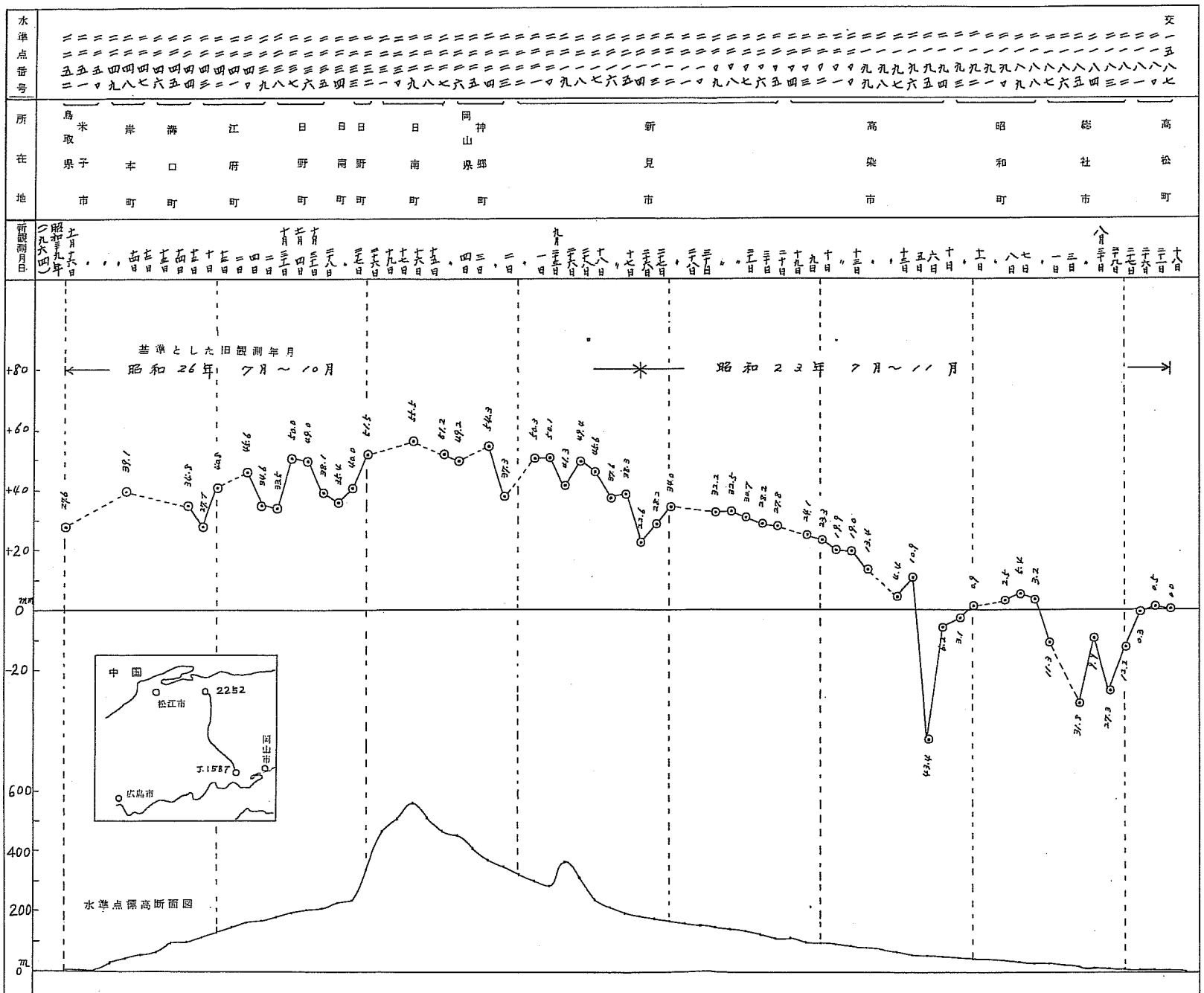
2　自　広島県佐伯郡五日市町　　至　福岡県北九州市



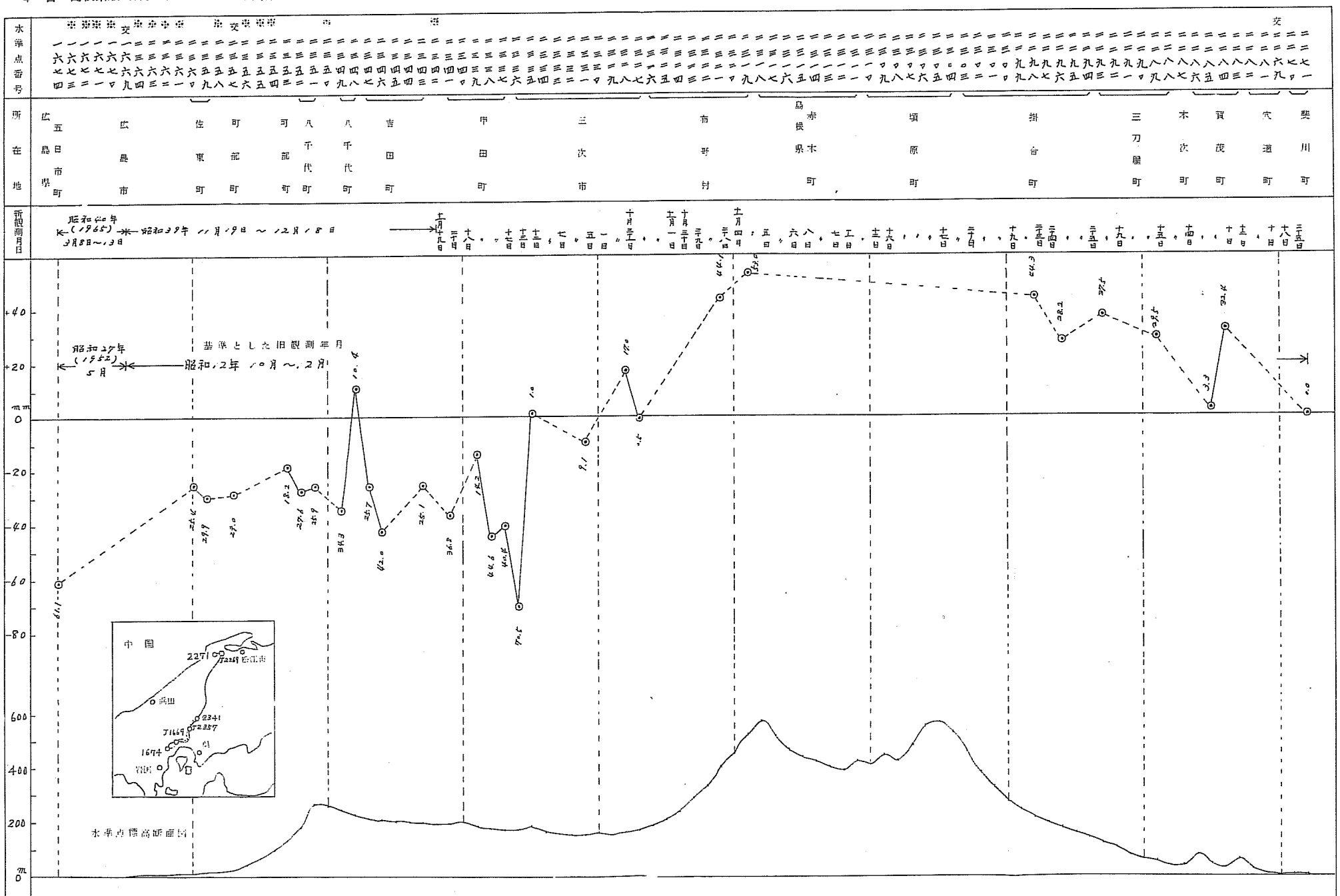
六七四
六七五
六七六
六七七
六七八
六七九
六八〇
六八一
六八二
六八三
六八四
六八五
六八六
六八七
六八八
六八九
六九〇
六九一
六九二
六九三
六九四
六九五
六九六
六九七
六九八
六九九
七〇〇

五日市町
廿日市町
竹原市
大竹市
和木町
岩国市
広島県

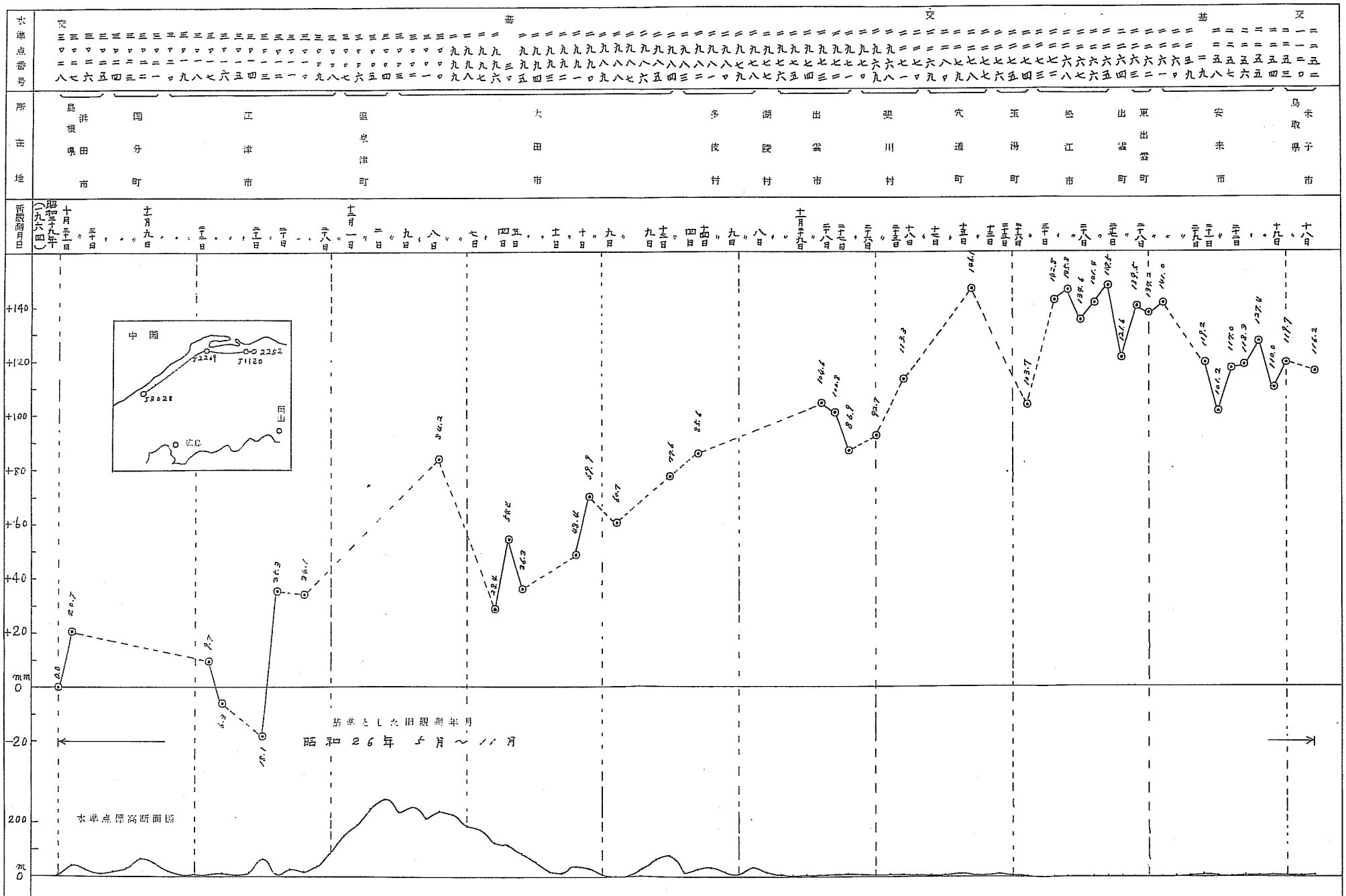
3　自　岡山県吉備郡高松町　　至　鳥取県米子市



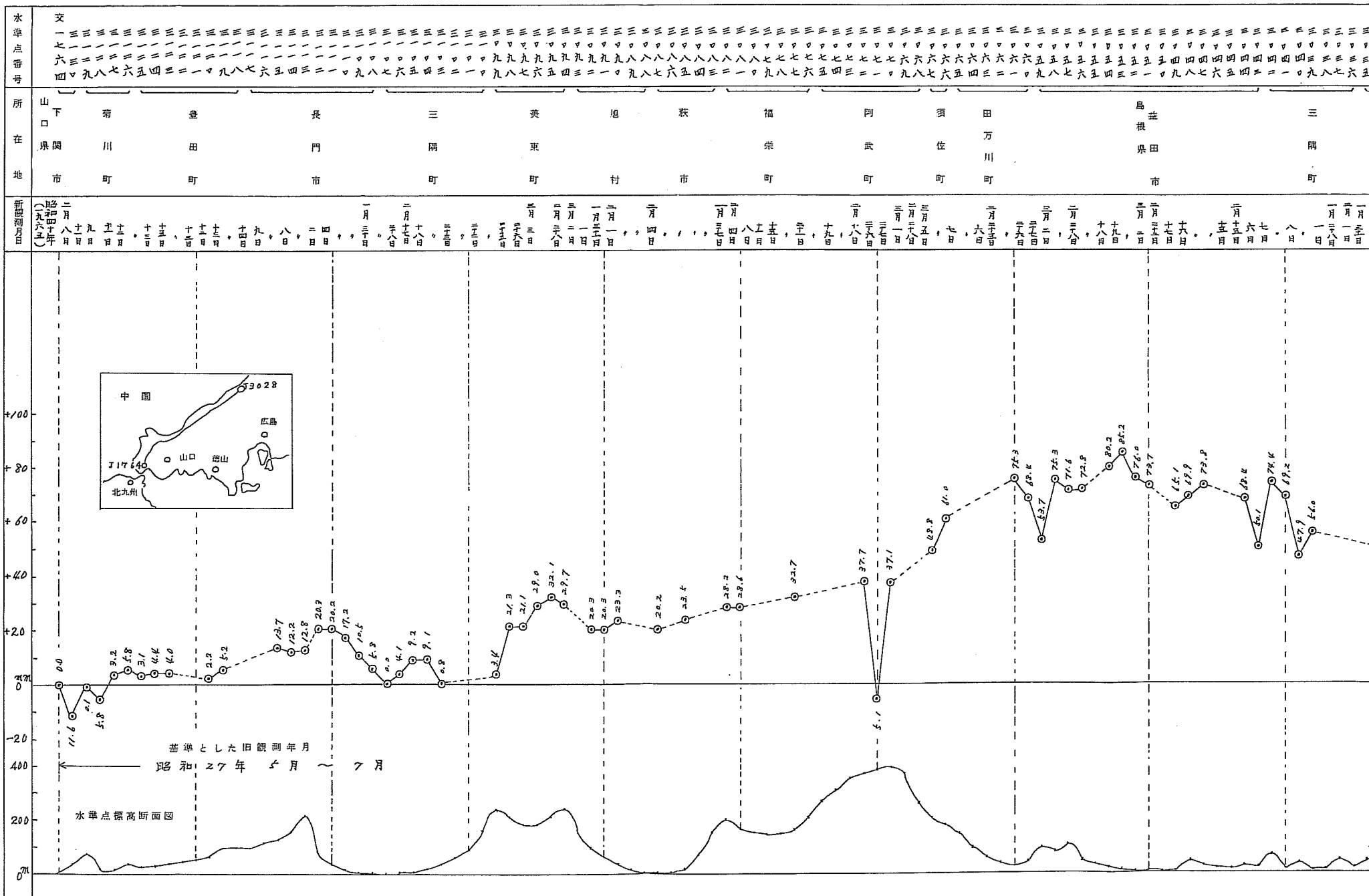
4　自　島根県簸川郡斐川町　　至　広島県佐伯郡五日市町

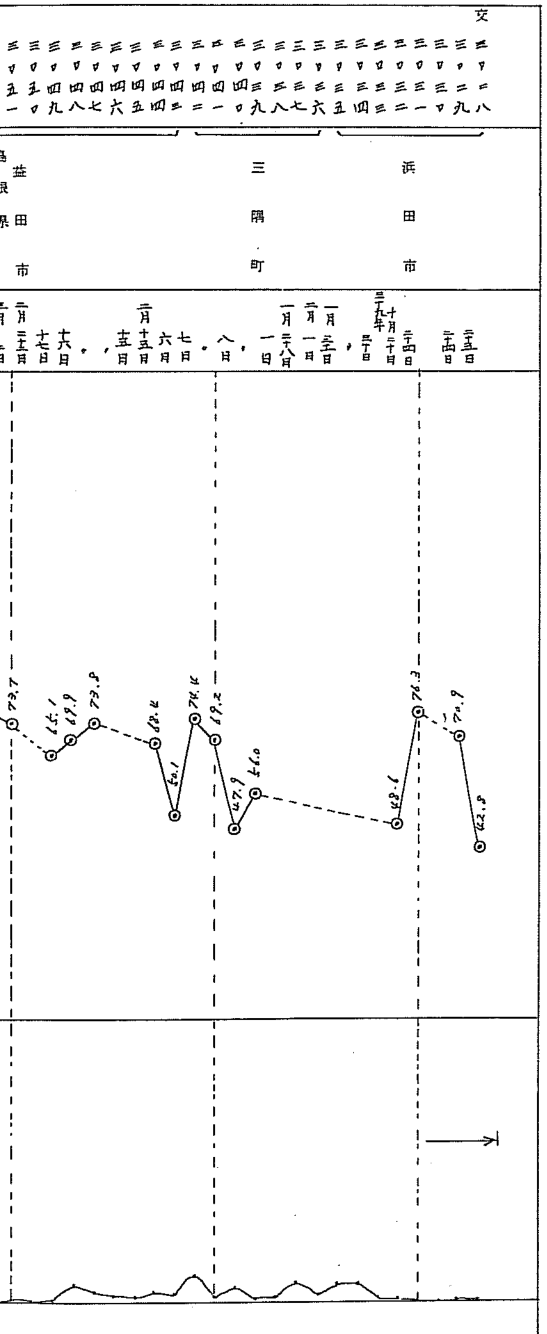


5　自　島根県浜田市　　至　鳥取県米子市



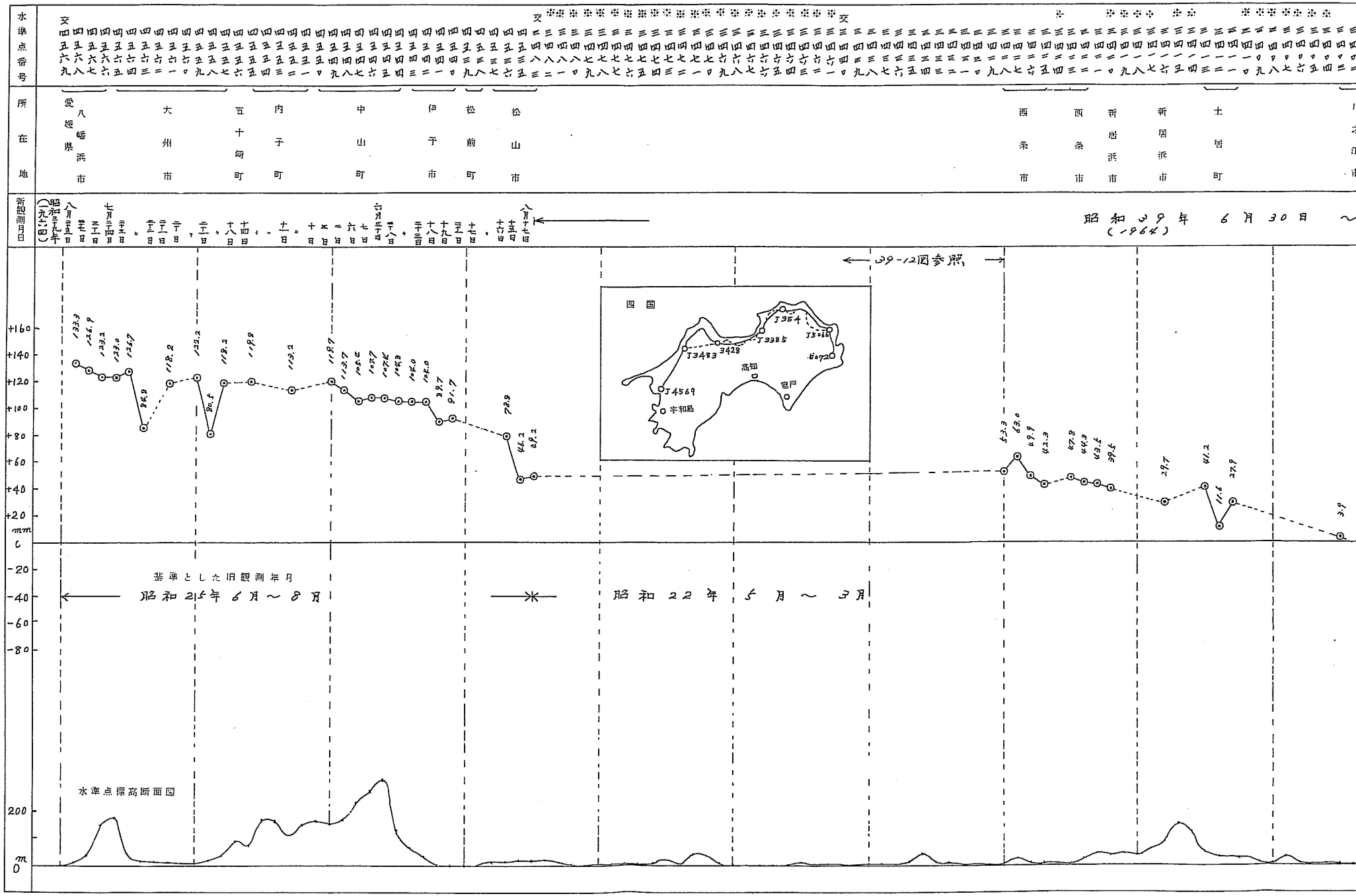
6　自　山口県下関市　　至　島根県浜田市

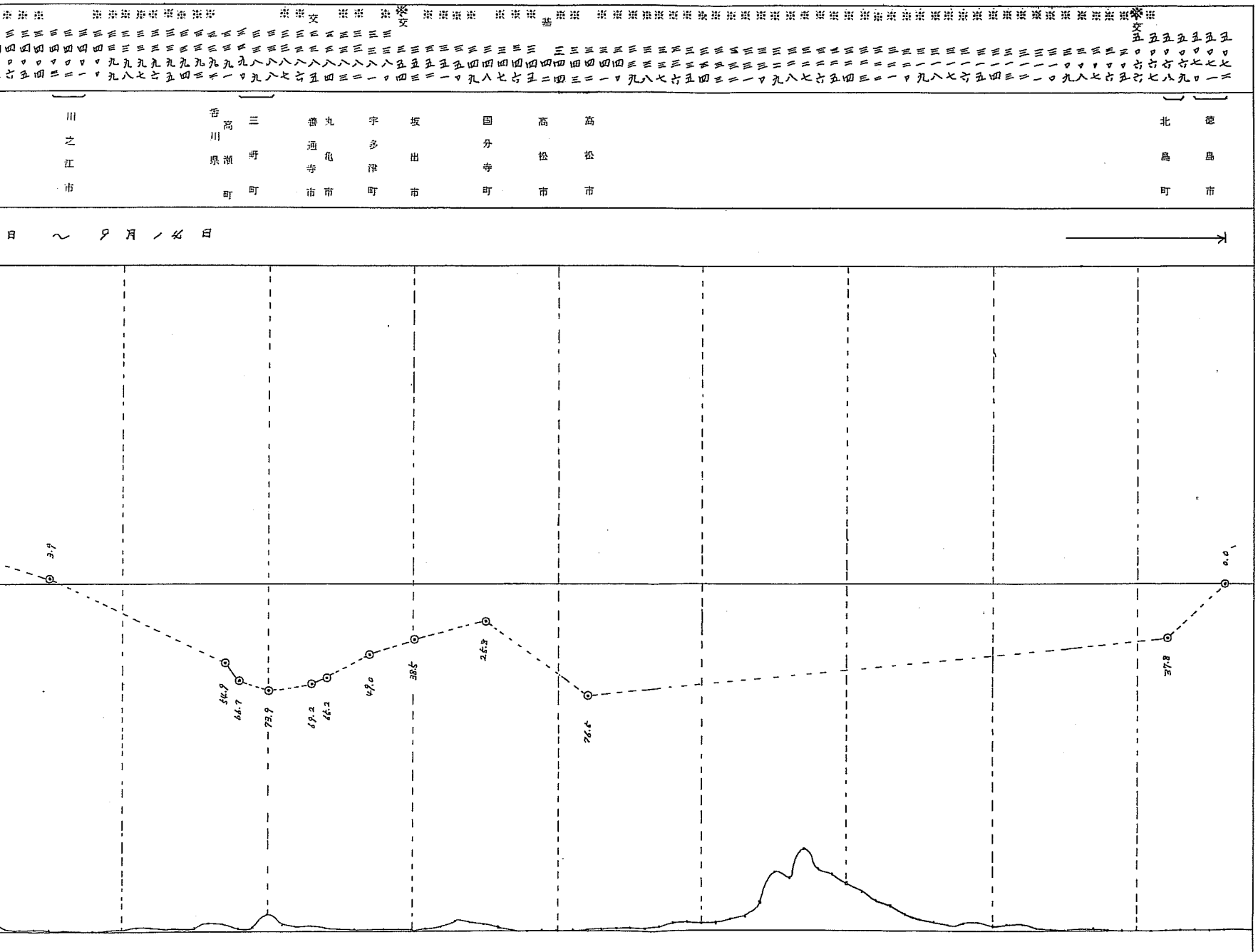




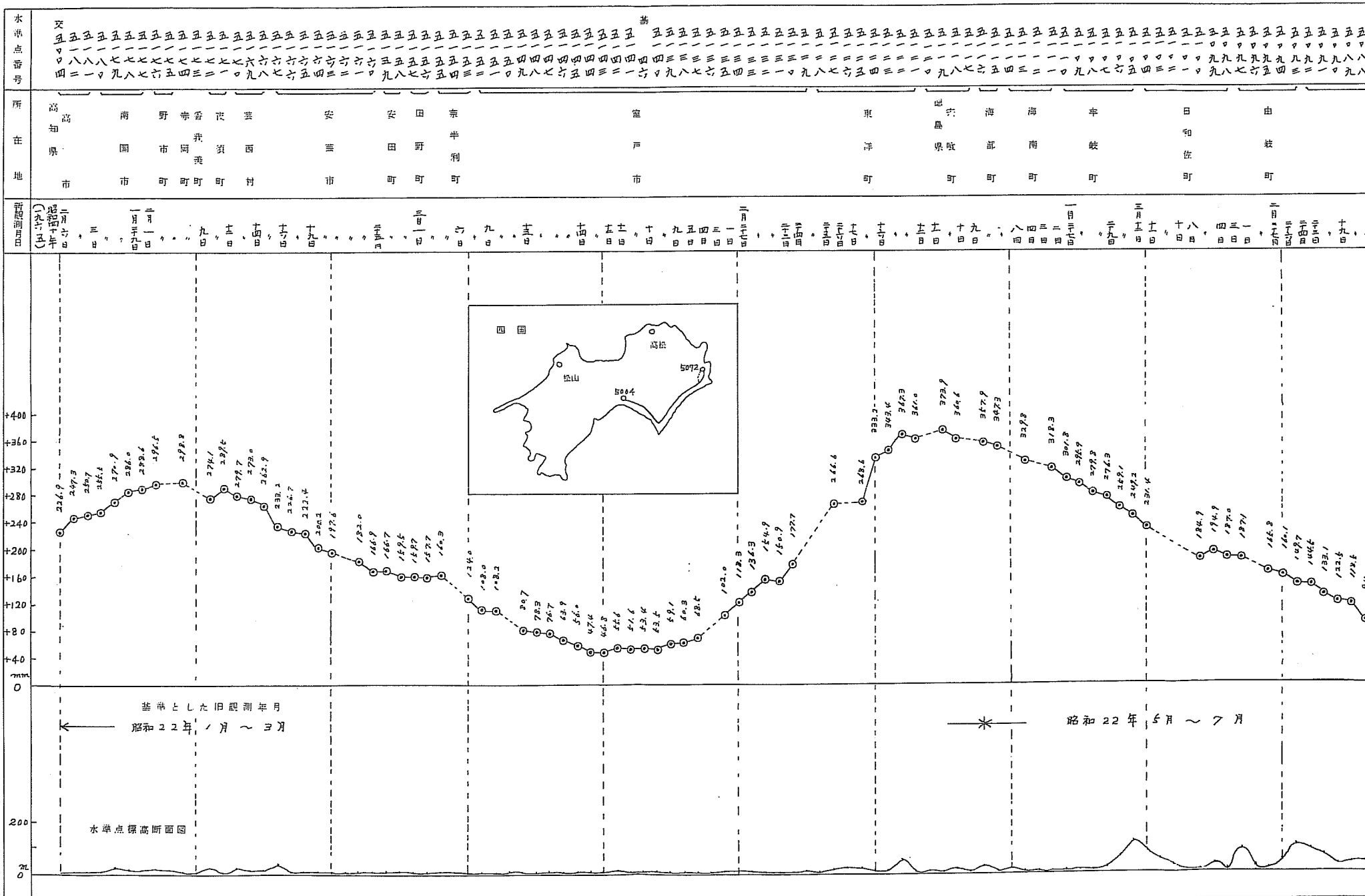
益田市
三隅町
浜田市
73.7
65.1
69.9
73.8
68.4
50.1
74.4
69.2
47.9
56.0
48.6
76.3
70.9

7　自　徳島県徳島市　　至　愛媛県八幡浜市



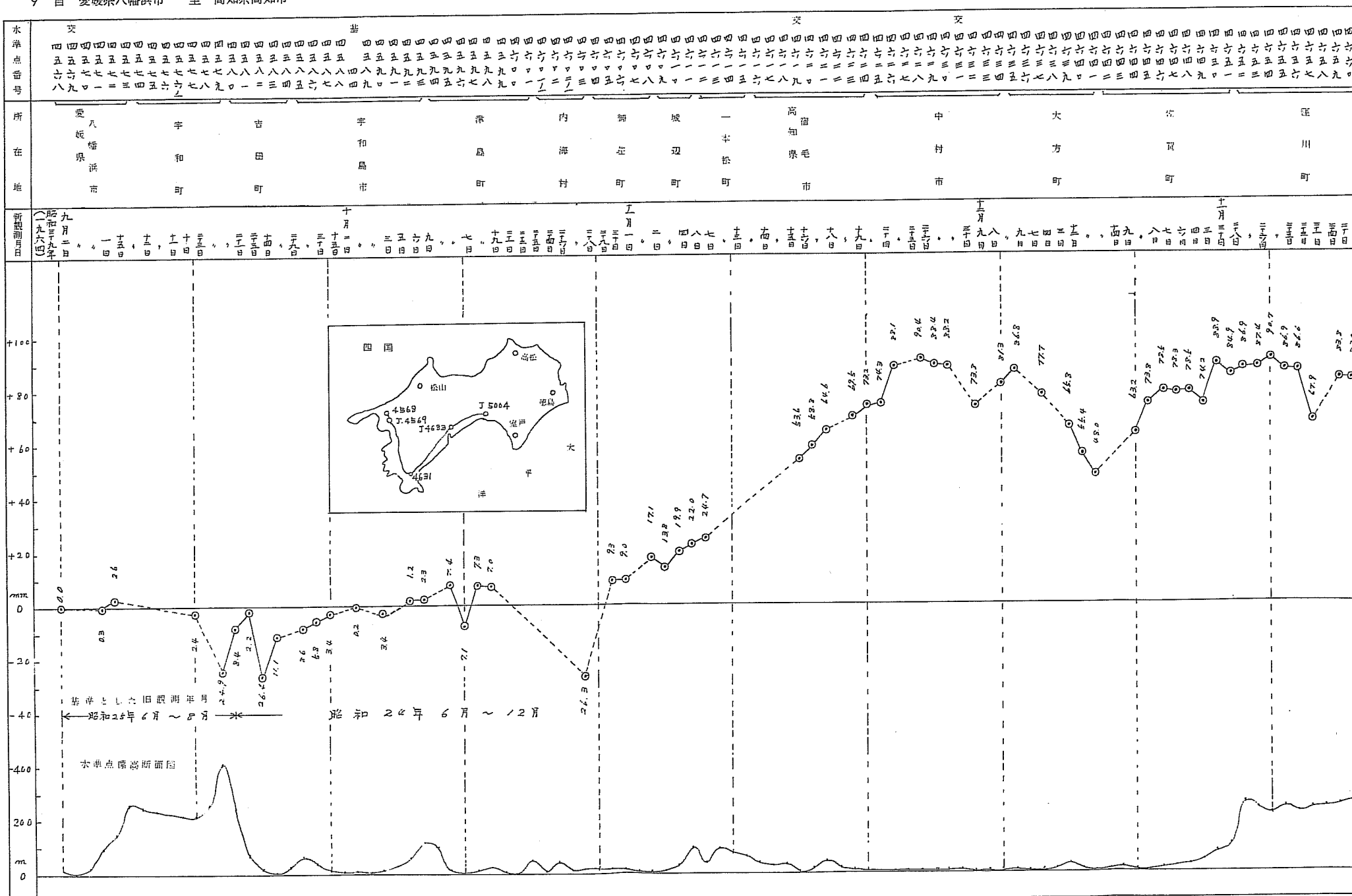

川之江市
香川県
高瀬町
三町町
善通寺市
丸亀市
宇多津町
坂出市
国分寺町
高松市
高松市
北島町
徳島市
日 ～ 月 ノ 日
3.9
54.9
64.7
73.9
69.2
65.2
48.0
38.5
26.5
76.4
37.8
0.0

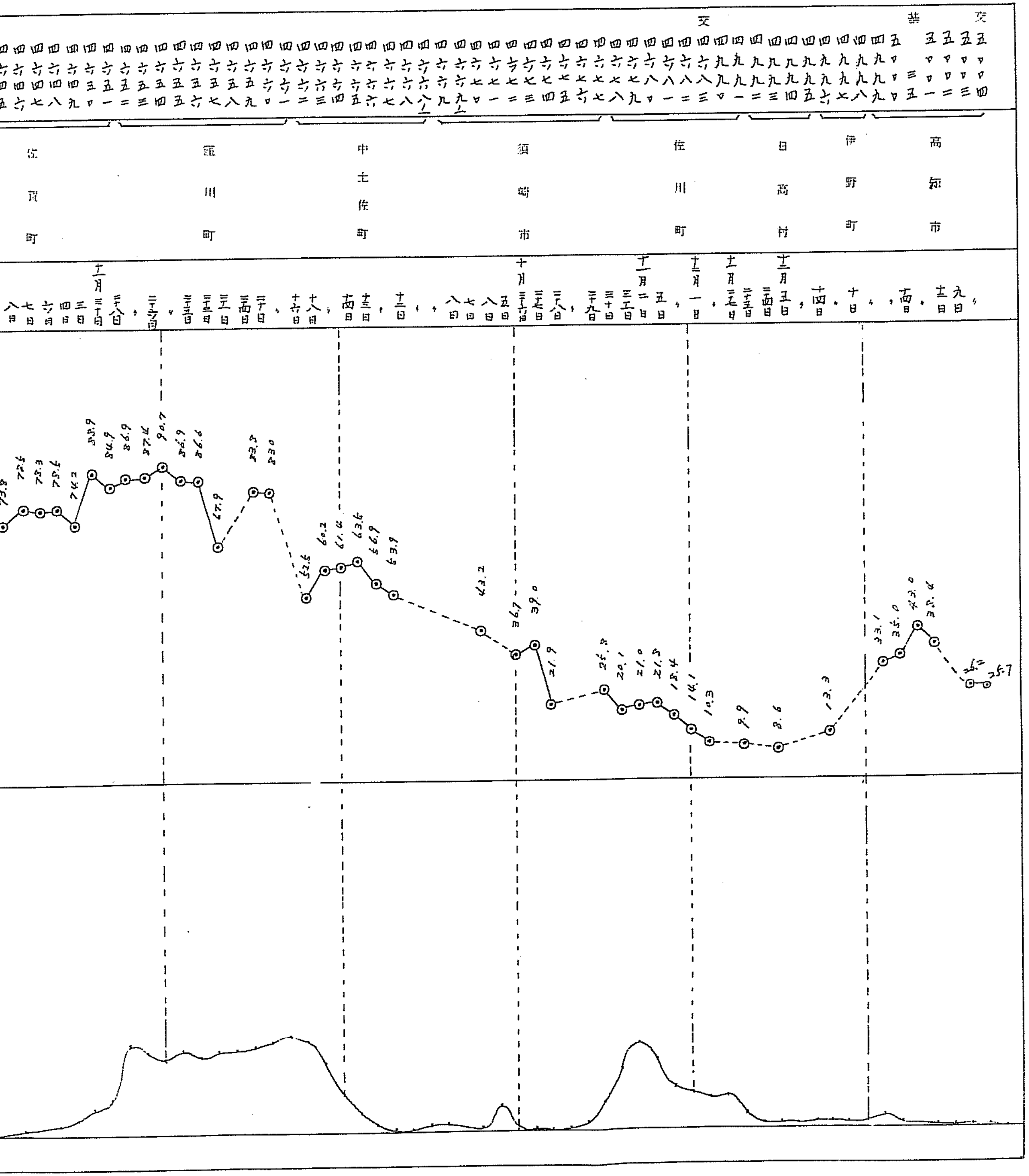
8　自　徳島県徳島市　　至　高知県高知市



昭和40年
(1965)
1月28日～2月2日
徳島市
羽浦町
阿南市
由岐町
7月

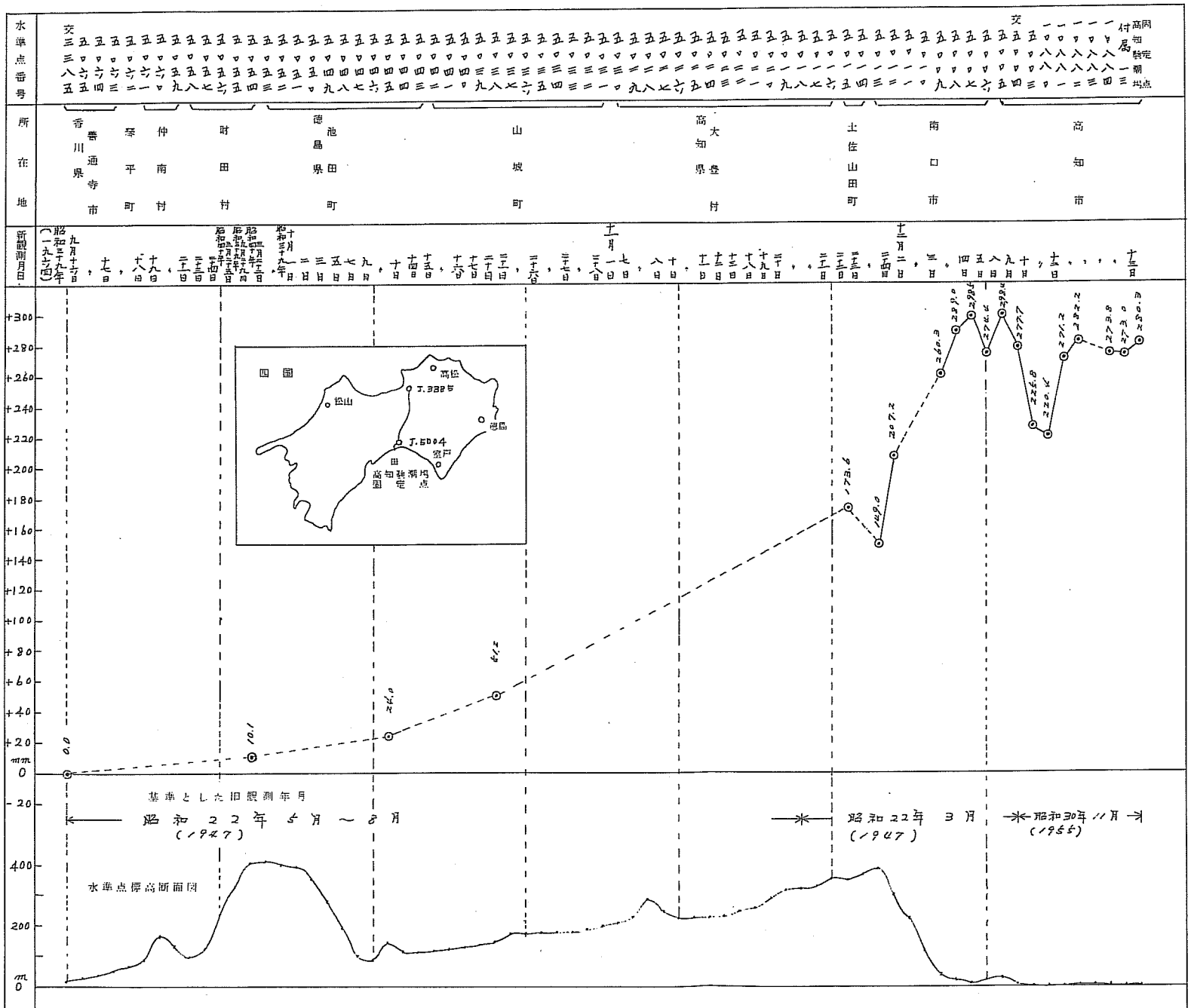
9　自　愛媛県八幡浜市　　至　高知県高知市



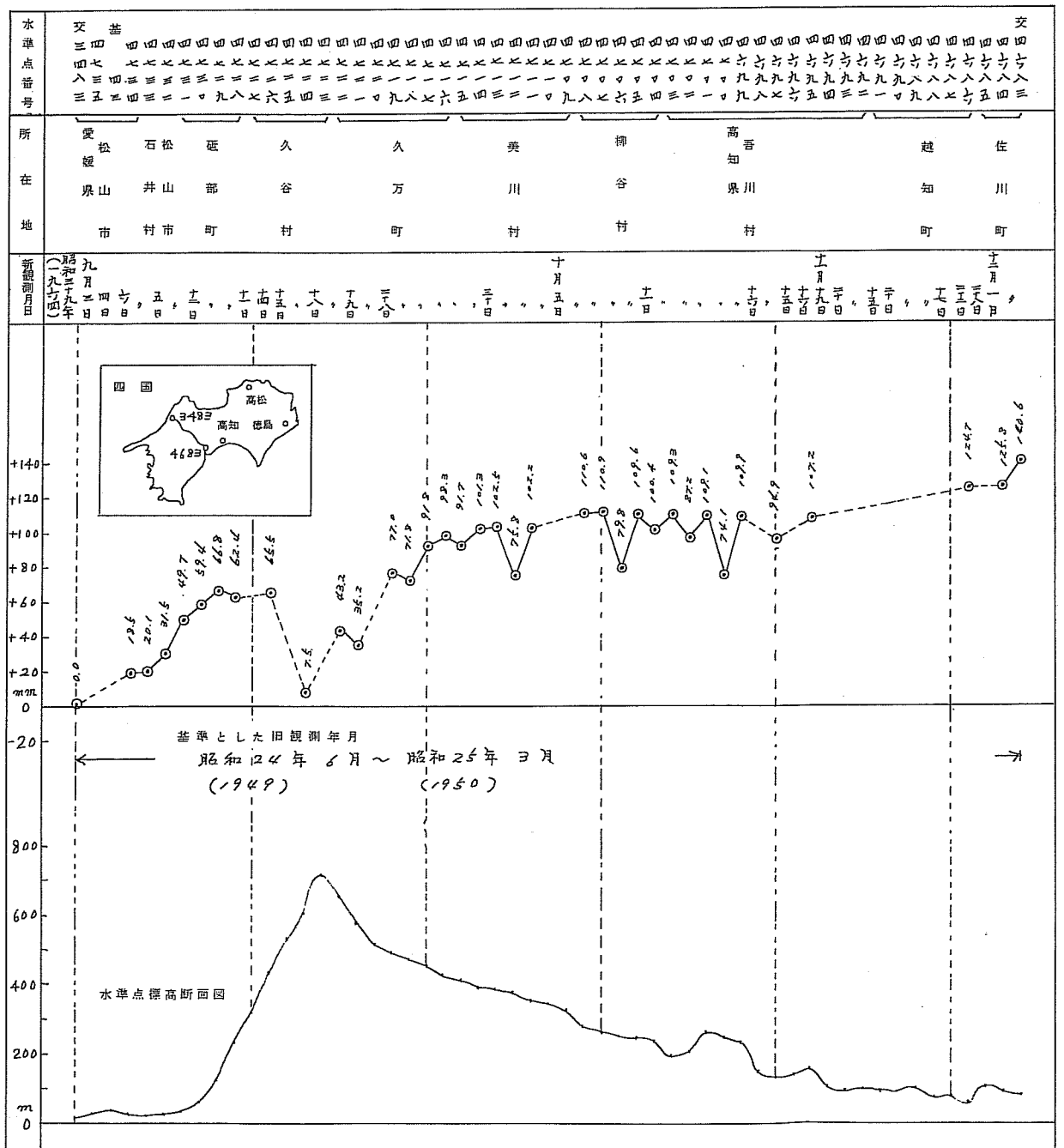


佐賀町
窪川町
中土佐町
須崎市
佐川町
日高村
伊野町
高知市

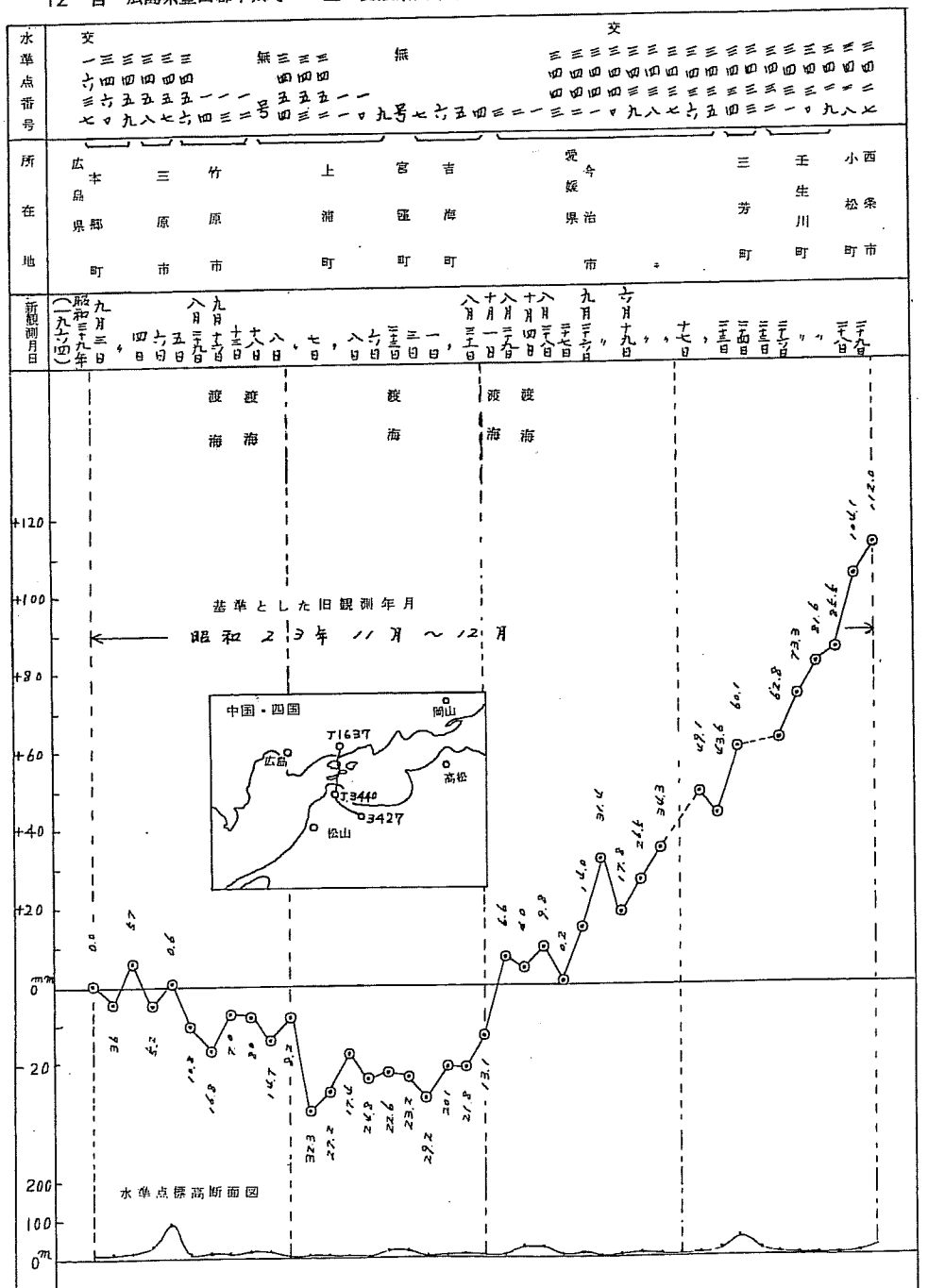
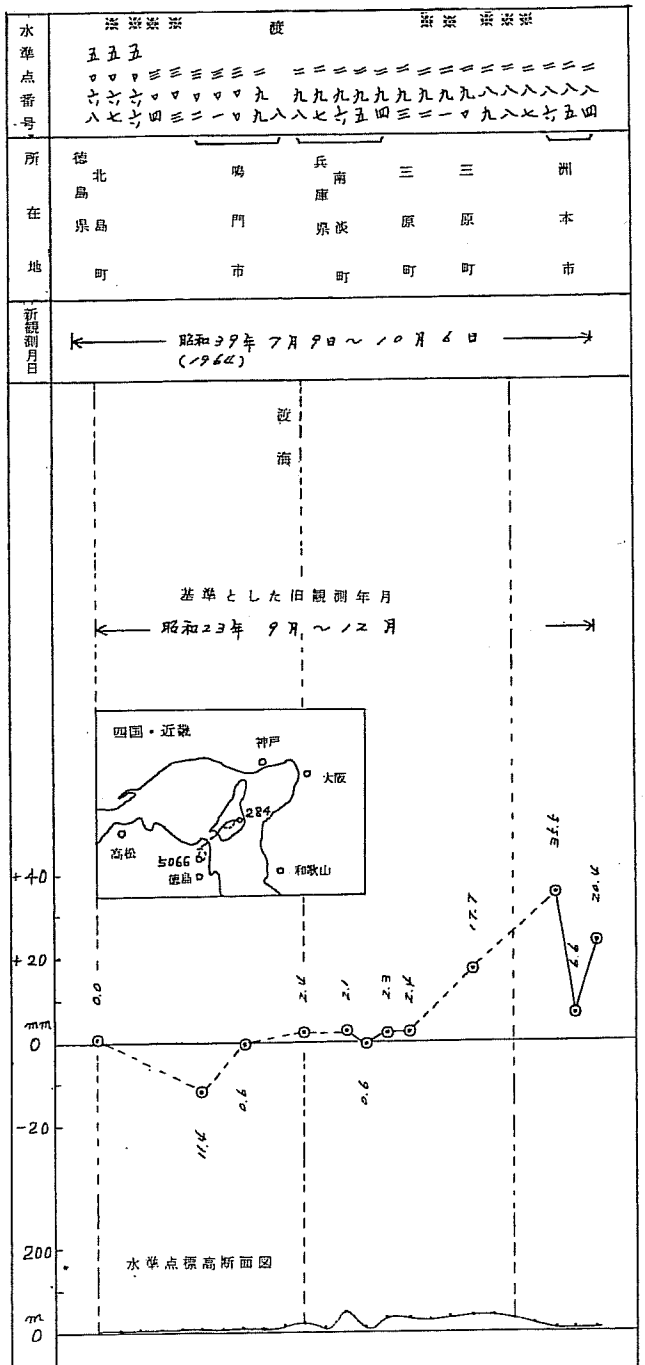
10　自　香川県善通寺市　　至　高知県高知市



11　自　愛媛県松山市　　至　高知県高岡郡佐川町



12　自　広島県豊田郡本郷町　　至　愛媛県西条市



13　自　徳島県板野郡北島町　　至　兵庫県洲本市